

第 1 期高等学校再編計画素案について

高校教育課

新たな再編計画案の提示については、平成 20 年 12 月を目途に鋭意取り組んできましたが、「高等学校再編計画の骨子（平成 20 年 9 月）」の中で、学校数を示した地域において、現在取り組んでいただいている議論に熟度の差があることや、地域での検討の期間の確保について配慮を求める声もあることから、今後も引き続き議論を続け、具体的な校名を盛り込んだ再編計画案は、平成 21 年 2 月に提示していくこととしたい。

今回は、再編計画素案として、魅力ある高校づくりを実現するための計画方針、旧通学区ごとの再編計画案の枠組みを示した。

1 魅力ある高校づくりを実現するための計画方針

(1) 中高一貫教育

ア 基本的な考え方

平成 13 年の中高一貫教育検討委員会報告書を基本に据えて、配置、形態、地域のニーズを考慮し、新しいタイプの高校のひとつとして、中高一貫教育を導入する。

イ 併設型中高一貫校の設置方針

弾力的・系統的な教育課程の編成が可能で、個性の伸張、学力の向上が期待できる併設型を導入する。導入にあたっては、本県におけるモデルケースとして位置づけ、東北信、中南信に 1 校ずつ設置する。

設置にあたっては、地域のニーズや高校の魅力づくりとの関連を考慮し、できるだけ広域から通学できることが望ましい。

ウ 連携型中高一貫校の設置方針

中高間の連携には、より高い教育効果や学校の活性化などを期待する声もあることから、設置にあたっては、地域や学校からの要望に配慮しながら検討していく。

(2) 専門高校の改善・充実

ア 基幹校について

専門高校の規模の縮小化により、専門教育の機能や魅力の低下が危惧される。農業科、工業科、商業科それぞれに、産業教育審議会の答申に述べられている要件を備え、多様な専門分野と専門性を追究することのできる体制を確保した基幹校を指定する。

基幹校は、各通学区に原則的に1校とするが、第3通学区は地理的要因に配慮し、学科によって複数の基幹校を配置する。

通学区	農業に関する学科	工業に関する学科	商業に関する学科
第1通学区	・須坂園芸高校	・長野工業高校	・長野商業高校
第2通学区	・北佐久農業高校	・上田千曲高校	・小諸商業高校
第3通学区	・上伊那農業高校 ・下伊那農業高校	・岡谷工業高校 ・飯田工業高校と飯田 長姫高校の統合校	・諏訪実業高校
第4通学区	・南安曇農業高校	・松本工業高校	・穂高商業高校

イ 特色校について

基幹校の周辺の専門高校については、学科設置の歴史的背景や地域の産業事情等を考慮し、特色校と位置づけ、学科の基本的な学習に加えて、特色ある専門性を発揮する専門高校として魅力づくりを進める。

ウ 基幹校と特色校のネットワークづくり

基幹校と特色校が連携するネットワークづくりにより、専門的な学習を深めるとともに、できるだけ多様な専門分野を提供して、産業教育の維持・充実を図る。

エ 基幹校の指定と再編計画

基幹校・特色校の考え方は、専門教育を充実するためのものであり、必ずしも基幹校を再編対象から外すということではない。地域によっては、基幹校を含む再編が必要な場合もあり、その際には、当該学科の基幹校の要件を維持していく。

オ 総合技術高校の構想

異なる専門学科の再編統合にあたっては、産業教育審議会答申に述べられている「総合技術高校」の構想を生かした高校づくりをめざす。

総合技術高校は、学科の規模を維持することにより、基幹校として位置づけることができる。(飯田工業高校と飯田長姫高校の統合校の総合技術高校は、工業科の基幹校とする。)

(3) 特色学科の改善・充実

ア 基本的な考え方

特色学科は、これまで、学力向上や学校の活性化の牽引的な役割を果たしてきた。今後も学校の魅力づくりのひとつとして、特色学科を充実・発展させていく。

一方、地域や学校の状況によっては、少子化や生徒のニーズの多様化などの各校の課題に対応して教育課程を見直し、特色学科の教育を発展的に生かしたシステムに転換することも必要である。

イ 新学科の設置

飯山高校 2 次統合にあたって、地域の高校教育を担うオールラウンドな高校づくりにおける新たな学科として、飯山高校に探究科を設置する。また、現在、飯山高校に設置されている体育科をスポーツ科学科に発展させる。

ウ システムの転換

平成 19 年度の須坂高校に引き続き、平成 21 年度に岡谷南高校へ進学対応型単位制を導入する。現在、岡谷南高校に設置されている英語科の教育内容については、平成 22 年度から、単位制の中で発展的に生かしていく。

(4) 高校への特別支援学校高等部分教室の設置

ア 基本的な考え方

各通学区に 1 校程度の特別支援学校高等部分教室の設置を進める。

イ 具体的な設置計画

平成 22 年度に、南安曇農業高校に安曇養護学校高等部分教室を設置する。

2 旧通学区ごとの再編計画の枠組み

(1) 旧第1通学区(第1通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

飯山高校の2次統合の際には、多様な資質や能力の生徒一人一人が有意義な高校生活を送り、それぞれの進路希望を実現できるような高校として教育環境を整備し、地域の高校教育担う学校づくりを進めていく。

再編計画の枠組み

飯山高校の2次統合の内容を以下のとおりとする。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1 対象校 | 飯山北高等学校、飯山高等学校【飯山高等学校2次統合】 |
| 2 募集開始年度 | 平成26年度 |
| 3 活用する校地校舎 | 飯山北高等学校 |
| 4 設置課程・学科及び
想定する募集学級数 | 全日制 普通科3学級、スポーツ科学科(仮称)1学級
探究科(仮称)2学級 |
| 5 その他 | |

(1) 募集開始年度について

中学校卒業生数の減少状況を考慮し、校舎改築が完了する平成26年度に募集を開始する。

(2) 普通科について

学力幅に対応した少人数授業や習熟度別授業と、多様な進路希望に対応した類型選択制授業により、幅広い進路実現を可能とする。

(3) スポーツ科学科について

これまでの体育科の成果を継承しつつ、体育理論とそれに基づく科学的トレーニングの研究などにより、スポーツ実技だけでなく科学的な学習も充実させるなど、先進的な競技者、指導者の育成を目指し、さらなる発展を図る。

(4) 探究科について

理数科の学びを継承し、言語能力と学び方の学びを基礎・基本に、課題を見だし解決する「探究活動」を中心に据え、自らの課題に即した系統的な学習を深めることにより、科学的な能力と態度を育て、コミュニケーション能力・自己表現力および創造的な能力を高め、さらなる発展を図る。

(2) 旧第2通学区(第1通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

今後の少子化の進行による学校規模の縮小化、第1通学区における専門学科の適正配置、多くの長野市内の中学生が入学している実状などを考慮し、須坂市内の4校を3校に再編統合し、専門学科を含む再編により、新たな魅力ある高校を配置することが適当。

再編統合の時期としては、平成25年以降の早い時期に実施することが適切。

再編計画の枠組み

平成25年以降、須坂市内に工業系を含む総合技術高校を設置する。

(3) 旧第3通学区(第1通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

長野市内県立6校には募集定員を大きく上回る志願者があることから、1学年8学級を上限として学校規模を確保していくことが適切。

2学級募集の地域高校については、遠距離通学が困難な生徒もいることから、地域の教育機会を保障するという観点から、地域キャンパス(分校)として地域に学びの拠点を置くことが適当。

中条高校については、平成21年度から長野西高校の地域キャンパス(分校)とする。

多部制・単位制高校については、第2通学区の多部制・単位制高校が、しなの鉄道沿線に設置された場合、人口が多くニーズの高い長野市内に設置することが適切。

多部制・単位制高校の設置にあたっては、第1通学区全体の中で定時制、通信制課程の適正配置を合わせて考えていく必要がある。

再編計画の枠組み

中条高校の地域キャンパス化の内容を以下のとおりとする。

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 校名 | 長野西高等学校中条校 |
| 2 募集開始年度 | 平成21年度(独自募集) |
| 3 設置課程・学科
及び募集学級数 | 全日制 普通科1学級 |
| 4 センター校 | 長野西高等学校 |
| 5 その他 | |

(1) 個に応じたきめ細かな指導

中条校独自の教育課程等によるきめ細かな指導を充実させる。1年次では国・数・英の3教科について習熟度に応じた授業を行い、2年次からは進路希望に応じて、「進学コース」「教養コース」の2つのコースに分かれて授業を行う。教育の質を確保し、生徒一人一人を大切に、少人数を生かした進路実現に向けての学力向上を図る。

(2) 2つのコース制を設置

- ・「進学コース」は、大学・短大等への進学を目標とし、進路希望に応じて、文系・理系のいずれかを選択する。きめ細かな科目選択ができるよう、3年次では、多様な選択科目を設定する。
- ・「教養コース」は、実技・実習科目等を取り入れ、社会人として必要な幅広い教養を身につけることを目標とする。

(3) 地域に密着した教育

地域に密着したさまざまな活動を通して、調和のとれた人間性を、地域の人々とともに培う中条校独自の教育内容により、地域とのかかわりを深めた教育活動を進める。

第2通学区の多部制・単位制高校の検討を受け、第1通学区については、長野市内への設置の検討を進める。

(4) 旧第4通学区(第1通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

旧第2通学区での再編計画や旧第3通学区の長野市内校の学校規模の状況を見ながら、併行して高校再編を検討する必要がある、その際には、専門学科を含む再編統合や新しいタイプの学校づくり等の魅力ある高校づくりを検討していく。

再編計画の枠組み

旧第4通学区の高校関係者や学識経験者により設立された「旧第4通学区の高校教育を考える会」の高校再編に関する検討状況を見守る。

(5) 旧第5通学区(第2通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

都市部では1学年8学級程度の学校も必要であることから、当面、現状の学校数を維持することが適切。

魅力ある高校づくりについては、定時制の志願者数の多い高校があることや義務教育関係者からの要望などを考えると、多部制・単位制高校をこの地区に設置することが適切。その際には、交通の利便性を考慮してしなの鉄道沿線の駅に近い学校に設置することが望ましいと考えられ、第2通学区全体の中で定時制の適正配置を合わせて考えていく。

再編計画の枠組み

現在、東御清翔高校において多部制・単位制の導入について検討中である。

(6) 旧第6通学区(第2通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

都市部周辺の小規模な高校については、生徒の確保が困難になっている高校もあることから、地域キャンパス化等の新たな再編基準を基本に据えて、将来のあり方を考えていく。

交通の利便性が高く高校数の多い佐久市街地において再編統合を進めることが適当であり、その際には、佐久市街地の5校を4校とし、専門学科を含む再編統合や普通科と専門学科の適正配置により、新たな魅力ある高校を配置していく。

再編計画の枠組み

平成25年以降、佐久市街地3校に設置されている職業系の専門学科を統合し、総合技術高校を1校設置する。普通高校は3校にする。

(7) 旧第7通学区(第3通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

地区の課題である生徒の流出等を解決する新しいタイプの学校の導入や学校の適正規模を検討し、早期に再編を進める必要がある。

再編計画の枠組み

平成21年度から、岡谷南高校を進学対応型単位制高校とする。

- 1 平成21年度から単位制を導入し、学期ごとに単位認定するシステム(セメスター制)を採用する。現在の英語科の教育内容を普通科において柔軟に発展させ、平成22年度から、普通科の進学対応型単位制高校として、さらに教育システムを整備する。
- 2 平成21年度の生徒募集にあたっては、移行措置として、普通科と英語科のくり募集を行い、単位制の中で生徒の希望に応じて専門のコースで学ぶことにより、英語科の教育を受けられるように対応する。

旧第7通学区の高校再編に関しては、生徒の流出等の課題を解決するため、進学対応型単位制高校の設置以外に、継続的に、新しいタイプの学校の導入や学校規模の適正化について検討を進める。

(8) 旧第8通学区(第3通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

地域高校以外の普通科をもつ高校がほぼ適正規模を確保していること、農業高校と工業高校が1校ずつ配置されていることから、当面、現状の学校数を維持することが適当。

再編計画の枠組み

箕輪進修高校の入学状況等から、多部制・単位制高校へのニーズが高いと考えられるので、システムの充実、発展をめざす。

(9) 旧第9通学区(第3通学区)の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

飯田工業高校と飯田長姫高校の統合による飯田新校は、全日制は基本的には1学年6学級規模の安定した生徒数を確保できる専門高校として将来構想することが適当。

両校とも現在4学級募集である現状から、旧第9通学区の総募集定員の推移を考慮し、開校時は7学級募集とし、定時制については2学級募集とすることが適当。

再編計画の枠組み

飯田工業高校と飯田長姫高校の統合の内容を以下のとおりとする。

- | | | |
|---|------------------------|---|
| 1 | 対象校 | 飯田工業高等学校(全日制・定時制)、
飯田長姫高等学校(全日制・定時制)【統合】 |
| 2 | 募集開始年度 | 平成25年度 |
| 3 | 活用する校地校舎 | 飯田長姫高等学校 |
| 4 | 設置課程・学科及び
想定する募集学級数 | 全日制 工業科5学級(機械系1、電子機械系1、
電気電子系1、建築系1、土木系1)
商業科2学級(商業系2)
定時制 普通科1学級 工業科1学級(機械系1) |

5 その他

(1) 募集開始年度について

中学校卒業生数の減少状況を考慮し、施設設備の整備が完了する平成25年度に募集を開始する。

(2) 統合校の学校規模について

旧第9通学区の将来的な生徒数を考慮すると、統合校は、基本的に1学年6学級規模の安定した生徒数を確保できる専門高校として将来構想する。

開校時は、両校とも現在4学級募集である現状から、旧第9通学区の総募集定員の推移を考慮し7学級募集とする。

(3) 統合校の概要

飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の既存学科を生かし、各学科の専門性を追究するとともに、学科横断的に、地域環境、起業等の学校設定科目や工業と商業の基礎科目を相互に履修するなど、「ものづくりの拠点校」にふさわしい総合技術高校を構想する。総合技術高校として適正規模が維持されることにより工業科の基幹校と考えられる。また、コース制の導入やくり募集の実施についても検討する。

(10) 旧第 10 通学区（第 4 通学区）の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

蘇南高校においては、地域の要望を踏まえ、現在の学科の学習環境を残しながら入学後の生徒の希望に応じて授業が選べるように、平成 21 年度から、普通、工業、商業の系列をもった地域型の総合学科を設置し、地域の高校教育を担う学校づくりを進める。

再編計画の枠組み

蘇南高校の総合学科転換の内容を以下のとおりとする。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 対象校 | 蘇南高等学校【総合学科転換】 |
| 2 募集開始年度 | 平成 21 年度 |
| 3 設置課程・学科
及び募集学級数 | 全日制 総合学科 2 学級 |
| 4 その他 | |
- (1) 「開拓者の精神を具現することのできる学校」という建学の精神に基づいて、地域社会の期待に応えられる人材の育成を目指す。
 - (2) 「産業社会と人間」を中心とする充実したキャリア教育と、3つの系列の多様な選択科目により、生徒が自らの進路を主体的に切り拓き、実現できるよう支援するシステムを構築する。
 - (3) 3つの系列を設置
 - ・「文理系列」には、大学等のさまざまな学部の受験に対応した選択科目を置く。受験だけでなく、社会人としての教養を高める科目や基礎学力を養う科目も設置する。
 - ・「ものづくり系列」には、これまでの工業科の伝統を生かし、電気や機械をベースにしたものづくりに関する科目を設置する。
 - ・「経営ビジネス系列」には、これまでの商業科の伝統を生かし、社会の仕組みを学び、ビジネスに生かせる選択科目を設置する。
 - (4) 資格取得を目指す科目を開講し、幅広いライセンスの取得に挑戦する意欲を養う。
 - (5) 少人数による授業講座、ホームルームの編成により、きめ細かく、一人一人に目の届く学校づくりを進める。
 - (6) 数学、英語における習熟度別授業を実施し、幅広い学力に対応して、伸びる力を「伸ばす」指導の充実を図る。

(11) 旧第 11 通学区（第 4 通学区）の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

当面は現在の学校数を維持し、社会の変化や生徒のニーズに対応した各校の魅力づくりを推進する。

再編計画の枠組み

骨子に示した方針に基づき、現状の校数を維持し、各校ごとの魅力づくりを推進する。

(12) 旧第 12 通学区（第 4 通学区）の再編

高等学校再編計画の骨子に示した再編の方向

普通科のある 3 校については、今後の少子化の影響が避けられないことから、平成 28 年頃を目途に 3 校のうち 2 校を再編統合することが適切。

統合校には地元の子の多くが入学することを想定して、地域を支える人材としてそれぞれの進路希望が達成できるような、地域の高校教育を担う学校づくりを進める。

再編計画の枠組み

再編計画第 1 期内に、大町市内に適正な学校規模をもった新しい高校を設置する。

第1期高等学校再編計画の概要

通学区	実施済の再編計画	これまでに決定した再編計画	検討中の再編計画
第1通学区 (北信)	飯山照丘 } 飯山南 } 統合 → 飯山 H19	飯山北 } 飯山 } 2次統合 → 飯山 H26	・須坂市内 4校 3校
	中野 } 中野実業 } 統合 → 中野立志館 総合学科 H19	中条 → 長野西 中条校 地域キャンパス H21	・多部制・単位制高校 の設置
第2通学区 (東信)	丸子実業 → 丸子修学館 総合学科 H19		・多部制・単位制高校 の設置
			・佐久市街 5校 4校
第3通学区 (南信)	箕輪工業 } 上伊那農業 } 定時制 } → 箕輪進修 多部制・単位制 H20	飯田工業 } 飯田長姫 } 統合 → 総合技術 高校 H25	
第4通学区 (中信)	木曾 } 木曾山林 } 統合 → 木曾青峰 H19	蘇南 → 蘇南 地域型総合学科 H21	・中高一貫校 の設置 (併設型)
	松本筑摩 } 松本工業 } 定時制 } → 松本筑摩 多部制・単位制 H19		・大北地区 普通高校 3校 2校

_____ は活用する校地校舎

 は再編後の学校名

専門学科の基幹校の指定について

	農業に関する学科	工業に関する学科	商業に関する学科
基幹校の要件	<p>「食料供給」に係る小学科を有し、地域の自然的立地条件にもとづく適地適産を基本とした基幹品目を教材として扱う。</p> <p>(北信地区)果樹、きのこ (東信地区)野菜、畜産 (諏訪・上伊那地区)花き、米 (飯伊地区)畜産、果樹 (中信地区)野菜、米</p> <p>「食糧供給」に関する学科以外に、「環境創造と素材生産」「バイオテクノロジー」「ヒューマン・サービス」に関する分野を学ぶ複数の学科が設置できる規模を有する。</p> <p>地域農業の担い手や関連産業の従事者等、農業の各分野のスペシャリストを育成する。</p> <p>大学や大学校、試験研究機関等と連携し、将来の進路に対応した質の高い教育を提供する。</p> <p>地域の農業教育のセンター的な役割を果たす。</p> <p>本県の農政や農業振興の方向性等も考慮する。</p>	<p>機械科、電気科等の基幹となる小学科以外に、複数の小学科が選択できる規模を有する。</p> <p>高度技術などの専門性を追求し、開発技術者の育成にも対応する。</p> <p>企業や大学等との連携を密に、高度な研究開発等を目指す資質を育み、成果を広く提供する。</p> <p>高度な専門性の追究と工業の基礎となる数理的思考力や探求心、創造力と豊かな人間性を醸成し、将来の開発技術者の育成を目指すことも可能とした科学技術高校の設置も視野に入れる。</p>	<p>ビジネス教育に対する多様なニーズに幅広く応え、地域経済における人材育成の中核となるよう、「マーケティング」「サービス経済」「アカウントティング」「ビジネス情報」の4分野の系統的な専門教育を提供できる規模を有する。</p> <p>多くの検定や資格等に対応し、ビジネス分野を学ぶ生徒の多様なニーズと進路を保障する。</p> <p>時代の要請に応える先進的な教育内容や教育情報を広く提供する。</p> <p>専門性を高める新たな小学科の設置、コース、類型制、くくり募集等の柔軟な対応も検討する。</p>
専門高校のネットワーク	<p>特色校の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特有の農業や環境に関する特色のある小学科を有し、有望な特産品目や魅力ある地域資源等を教材として取り扱う。 ・地域との連携を特に深め、農業に関する地域産業の発展に寄与する人材を育成する。 <p>基幹校と特色校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発や指導方法等の研究 ・学力向上や進路選択の幅を広げるための多様な教育機会の提供 ・専門性を高めるための学習支援や施設設備の有効利用 ・科目「課題研究」の共同研究、資格取得や大学進学のための合同合宿 等 	<p>特色校の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業の基礎的な学科や地域特有の産業に関連する学科を有し、工業の中核的な技術・技能を学び、実践的な教育を提供する。 ・地域企業等と連携し、地域産業を担う人材を育成する。 <p>基幹校と特色校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の特徴的な施設設備の有効利用 ・各種ものづくり競技大会に向けた研修会や技能検定などの合同開催 ・大学等への進学に向けた合同学習合宿 ・開発したカリキュラムの相互の活用 等 	<p>特色校の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業の実情を踏まえ、情報ビジネス、観光ビジネス、地域商店街との連携、商品開発等、ニーズに応じた特色ある教育を提供する。 ・産業界と連携し地域産業を担う人材を育成する。 <p>商業教育を導入するその他の学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科、総合学科では、生徒や学校の実情に合った専門教育を提供し、生徒のキャリア形成を支援する。 <p>基幹校とその他の学校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な資格・検定に対応した合同学習合宿 ・学校間取引等の実践的学習の際の協調学習 ・ネットワーク機器の積極的な導入・活用等によるビジネス教育の推進 等

家庭教育、福祉教育を行う学校・学科については、普通高校等に選択的に導入されている実情を考慮し、学校や通学区内の状況に応じて配置する。

基幹校と特色校の連携について

専門高校のネットワークにより、基幹校と特色校が連携し、ともに本県の産業教育を担う高校として産業教育の質の維持・充実を図る。

連携することにより、各校の生徒が多様な専門分野を学びあい、切磋琢磨して専門性の深化や進路実現を目指した教育を実践する。

専門性を高める学習支援や進路選択の幅を広げる多様な教育機会の提供方法として以下が考えられる。

- ・ 大学等への進学に対応した合同合宿や合同研修会
- ・ 高度な資格・検定に対応した合同合宿や合同研修会
- ・ 科目「課題研究」等の共同研究や合同発表会
- ・ 施設設備等を含めた教育資源の学校間での有効活用

(専門高校のネットワークの具体例)

- 農業
- ・ 農業の専門技術に関する審査会（フラワーアレンジメント、農業鑑定、測量、家畜審査などのコンクール）・発表会（プロジェクト学習発表会、意見発表会）の生徒による合同運営
 - ・ 各校に特徴ある農業実習地や農業機械の有効活用
 - ・ 外部講師による講習会の合同開催
 - ・ 専門分野を担当する教員の基幹校と特色校の兼務
- 工業
- ・ 各種ものづくり競技大会に向けた合同研修会
 - ・ 技能検定の合同開催
 - ・ 学びあうロボコン信州（大会参加に向けた各校の技術研究の交流）
 - ・ 国立大学進学希望者の合同学習合宿
 - ・ 課題研究の合同発表会
- 商業
- ・ 簿記、プログラム、ワープロ、珠算等の競技大会参加に向けた合同合宿
 - ・ 簿記会計、情報技術者などの高度資格・検定へ向けた合同学習会
 - ・ ネットワーク機器を利用した学校間のビジネスシミュレーション実習
 - ・ 小学生向けのビジネス社会体験イベントの合同開催